

十勝産野菜 9品目全道一

2019年4月9日

2017年に十勝管内で収穫された主要な野菜31品目のうち、枝豆やナガイモなど9品目で道内首位の収穫量となった。台風被害があった16年と比べると、天候に恵まれ多くの作物で収穫量が大きく伸びた。シェア・トップの品目も16年から1品目増えた。

◆十勝管内の収穫量が 道内シェア首位の主要野菜

品目	収穫量 (トン)	道内 シェア (%)
枝 豆	6983.8	97.5
ナ ガ イ モ	4万0430.9	86.3
サヤインゲン	1751.2	71.7
ゴ ボ ウ	9006.1	66.8
ニ ン ニ ク	218.3	53.5
スイートコーン	3万6677.8	49.3
キ ャ ベ ツ	1万7574.8	36.1
ダ イ コ ン	3万9709.0	32.9
ニ ン ジ ン	5万0394.0	32.0

※道農政部の2017年産「主要
野菜作付実態調査」から算出

道農政部の主要野菜作付実態調査を基にまとめた。道内の作付面積は4万5862.7ヘクタール。道内14振興局のうち十勝は最大の1万1253.1ヘクタール(24.5%)。22.8%のオホーツク、20.6%の上川を合わせた3管内で、全道の7割弱を占める。

十勝の野菜で道内シェアが最も高かったのは枝豆で97.5%。J A中札内村の特産で海外輸出にも取り組んでいる。収穫量は16年比87.9%増の6983.8トンだった。

枝豆に続くのがナガイモ。十勝は青森と並ぶ一大産地で道内シェアは86.3%を占める。

J A帯広かわにしを中心に管内9 J Aで生産する「十勝川西長いも」などがあり、台湾や米国、シンガポールへの輸出も盛んだ。収穫量は12.3%増の4万430.9トン。

スイートコーンは16年産も道内トップだったが、台風の影響を大きく受けた。17年産は収穫量が2.4倍の3万6677.8トンとなった。シェアは16年産の3割程度から5割にまで伸びた。

16年産でオホーツクに次ぐ2番目のシェアだったニンジン、収穫量が32.9%増の5万394トンとなり、トップに立った。

サヤインゲンが7割超、ゴボウが6割超、ニンニクが5割、キャベツとダイコンが3割超のシェアを有している。

18年産砂糖 17万3700トン

2019年5月8日

日本甜菜製糖芽室製糖所は2018年産ビートの砂糖生産実績をまとめた。砂糖生産高は、前年が大豊作だったこともあって3.5%減少したが、17万3700トンと高い水準を維持した。

◆豊作反動も高水準維持 日甜芽室

糖度0.2ポイント増 17.3%

同製糖所が受け入れるビートの作付面積は1.4%減少し、1万4016ヘクタール。1ヘクタール当たりの収量は5.5%減の72.13トンだったが、同製糖所は「18年産も豊作だった」とする。受け入れたビートの量は6.8%少ない101万918トンだった。

糖度は17.3%と0.2ポイント上がった。長雨や低温が続いた1年だったが、10月に天候が回復。秋は昼と夜の気温差が大きく、糖度が上昇する条件に恵まれた。

製糖期間は4月19日までの187日間で、前年より36日間短かった。秋の天候が良く、ビートに付いた土が少なかったため製糖効率は良かった。

ビート栽培は他の作物に比べて手間がかかり、豊作が

続いていても、高齢化や労働力不足のため作付面積は減少傾向にある。同製糖所は作業効率化に向けて、「大型収穫期や直播(ちよくはん)のは種機などを紹介していきたい」としている。

